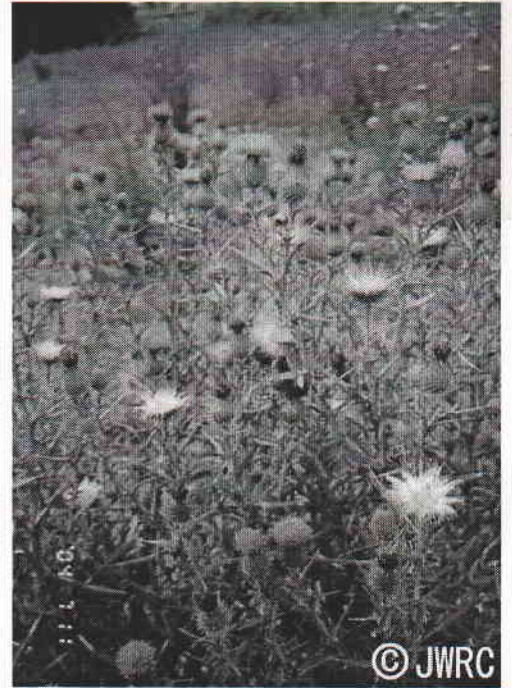


アメリカオニアザミ

基本情報	
和名	アメリカオニアザミ ※1
分類群	維管束植物 双子葉・合弁花類 キク科 (Asteraceae, Asterales, Magnoliopsida, Magnoliophyta)
学名	<i>Cirsium vulgare</i>
英名等	Bull thistle, Spear thistle
自然分布	ヨーロッパ
形態	※2 一～二年草。根生葉は羽状に深裂して大きなロゼットになる。茎はロゼットの中央に立ち高さ50～100cm, 全体にわたり鋭い刺を持つひれ(翼)がある。葉は上面緑色で硬い短毛があり, 下面は綿毛が多く白色。頭花は枝上に1～3個つき, 総苞片は線形で先は鋭く尖る。花は淡紅紫色, 両性, 花冠は長さ3～4cm, 冠毛は白色で帯状に分枝, 花床には1～2cmの白い剛毛状の鱗片がある。果実(瘦果)は灰白色で長さ3mm。染色体数2n=68,102
生息環境	畑地, 樹園地, 牧草地, 路傍, 荒地, 原野など 温度選好性: 温帯
繁殖生態	頭状花, 虫媒花。瘦果は, 風, 雨, 動物, 人間などにより伝播 繁殖期: 7～10月
生態的特性	肥沃で湿った土地を好む。
侵入情報	
国内移入分布	北海道～四国。北海道では特に蔓延しており, 利尻・礼文・天売・焼尻・渡島大島など離島にも分布する。
移入元	北米
侵入経路	北アメリカからの非意図的移入(輸入穀物や牧草への混入)
侵入年代	1960年代北海道で確認
影響	在来種, 畑作物, 牧草と競合。鋭い棘が家畜に害。数種の虫(コロラドハムシ <i>Leptinotarsa decemlineata</i> 等), ウイルスの寄主。 影響を受ける生物: 在来草本植物, 農産物, 牧草など
法的扱い	アザミ属の生茎葉は, コロラドハムシ蔓延地域からの輸入禁止(植物防疫法)。外来生物法で要注意外来生物に指定された。 ※4
防除方法	抜き取り, 刈り取り
問題点等	
海外移入分布	アジア, アフリカ, 南北アメリカ, オセアニアに分布



(補足コメント — NPO花とみどり)

- ※1 アメリカ・オニアザミ=別名: セイヨウ・オニアザミ (原産地: ヨーロッパ)。
- ※2 「一～二年草」となっていますが、日本では少なくとも3～5年間の継続生育も観察。「(短命の) 多年草」の記述も・・・(インターネット情報)。したがって、とりあえずは「多年草」とみなし、根も除去するのがいいでしょう。
- ※3 ロゼット=タンポポのように水平に葉を広げた状態。発芽後しばらくは、この状態をとるらしい(未解明)。この状態なら、除去は比較的容易。
- ※4 環境省は2015年に「要注意外来生物」を「生態系被害防止外来種」に変更、4類型に分けきめ細かく検討中。アメリカ・オニアザミは第2類型(注意喚起。情報収集により被害が明確な「特定外来生物」への指定を検討)に。
- ※5 外来種で1960年代に北海道で発見、今では大阪府(全域)にも。九州へは、未到達(未侵入)らしい。
- ※6 【全般】花びら・根以外の全身に細く鋭い多数のトゲを持つ。トゲは皮手袋なども突き抜け、細いため刺さると抜くのは容易でなく、バラなどの太いトゲよりはるかにやっかい。除草剤も、種類によっては効かないようです(公園などでは、除草剤の使用は慎重に)。また、タンポポのように綿毛のタネ(瘦果=そうか)で拡散。箕面では、今のところまだ点々とした生育。多数株による群生地(基地)ができるなど、タンポポのように一面に広がらないうちに抑制するのがいいでしょう。